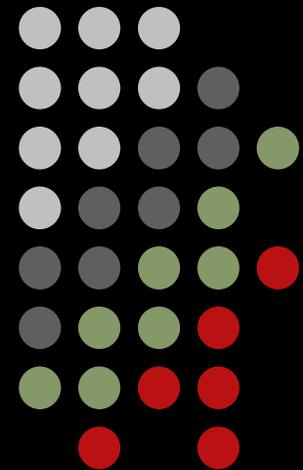
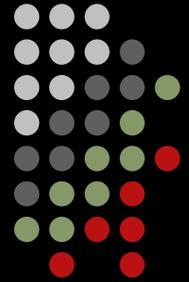


ブルーム

法学部法律学科 3年
深澤 亮

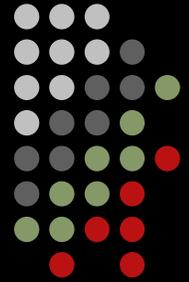


ブルームってどんな人?



- Benjamin Samuel Bloom
- 1913年 ~ 1999年 アメリカの心理学者
 - 1972年, 1983年には来日し講演を行っている
- masterly learning = 完全習得学習の提唱者

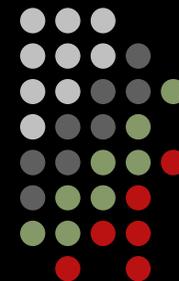
完全習得学習って何?



- 学習者全員が同一の学習目標を達成可能と主張
 - 教育者たちの理想を、達成可能とした革新
- 実現のための方法論が「完全習得学習」

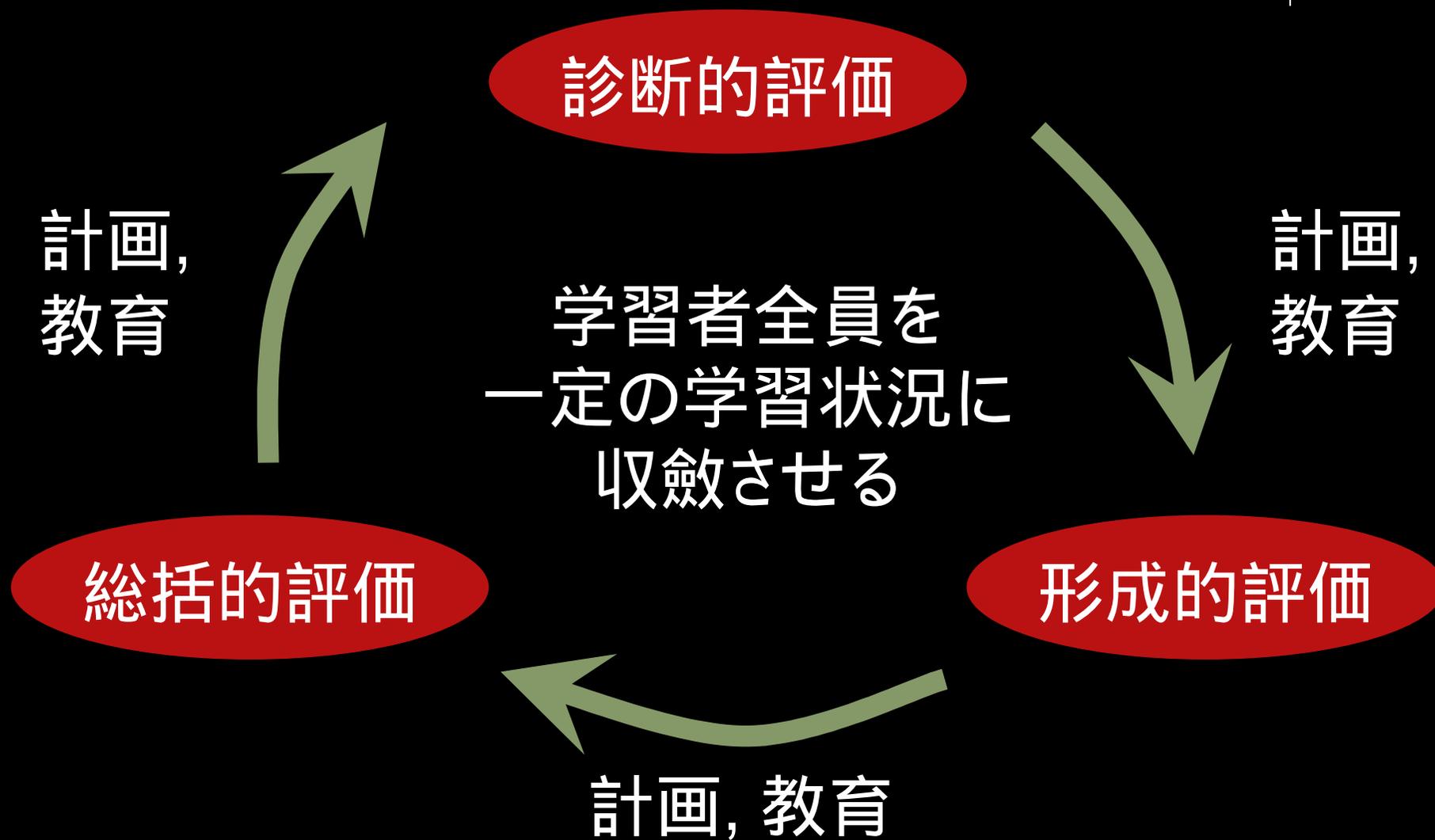
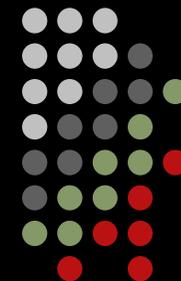
- 1950～1970年代にかけてブルームが提唱
- その後John B. Carrollらの手でリファインされる
- 現在も世界の教育に影響を与えている

完全習得学習の肝は?

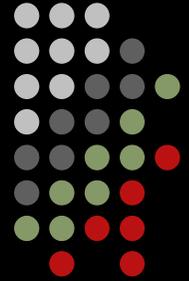


- 学習者全員を常に一定の習得状況に収斂させる
- 3種類の評価と教育活動へのフィードバック
 - 診断的評価
 - 教育開始前の実態調査 教育計画立案, 事前教育
 - 形成的評価
 - 教育課程での習得状況調査 計画修正, 個別/グループ教育
 - 総括的評価
 - 学習目標到達を確認 次期教育活動の診断的評価含む

完全習得学習の肝は?



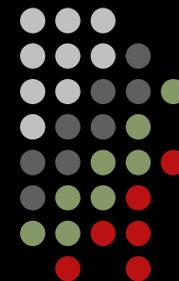
今日の教育には定着しているの？



- 入学試験 = 診断的評価
- 授業中の小テスト, 定期試験 = 形成的評価
- 定期試験 = 総括的評価

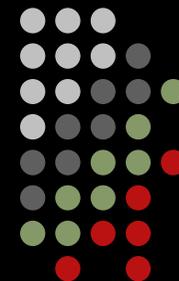
- 完全習得学習の影響を受けていると言える
-形式上は

今日の教育には定着しているの？

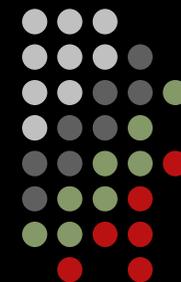


- ブルーム著書序文
「本書の主要な関心事は、生徒の学習の改善」
- つい最近の惨事、いわゆる必修逃れ
- 「大学入試で不要だから」「合格実績欲しいから」
 - 火のないところに煙は立たぬ
 - 結局、己の名声欲しさの選択
- 「彼らの主要な関心事は、生徒の出力する”合否”」

今日の教育には定着しているの？



- ブルームの考えとは相容れない現状
- 今日の教育に、完全習得学習は存在し得ない
- 当然、定着しようがない
- 影響は受けており、誤用転じて悪用されている



おわり